

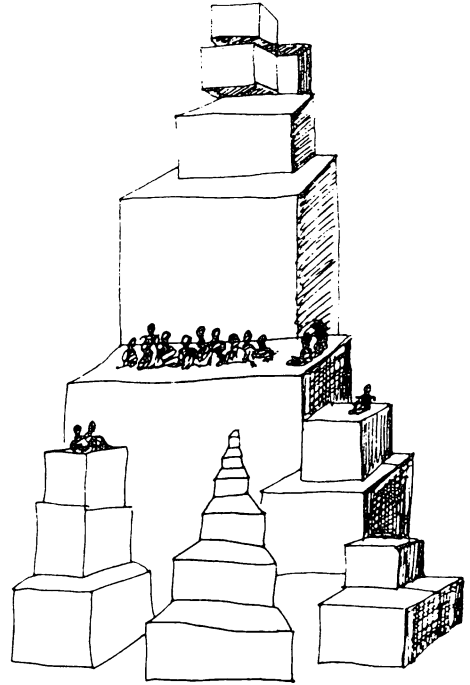
南山短期大学人間関係研究センター事業報告
(1999年度)

事業概要	225
社会人研修	226
1. 人間関係基礎研修講座（一般研修）	226
2. 人間関係専門研修講座（継続研修）	226
3. 社会人研修参加者統計	228
コンサルテーション	229
人間関係研究センター紀要『人間関係』総目次および総索引	231
南山短期大学人間関係研究センター規程	243

■ 事業概要

“ねむりこけたままほうられている人間が多すぎる”

—サン・テグジュペリ



センターの重要な活動である社会人のための公開講座は、1977年のセンターの発足時から毎年定期的に関講されている基礎研修講座を中心に、各種の専門研修講座や特定研修講座を開催している。これらの講座は南山短期大学が地域社会に対してユニークな学習の場を提供する機能と同時に、センター研究員に対して教育訓練に関する多様な臨床研究の場を提供する機能を果たしている。

基礎研修講座（一般研修）は、昨年度は春・秋に各1回ずつ開催され、既に52回を重ねた。基本的なプログラムは週1回約3時間の研修を10週間続けて1コースとし、体験学習による自己理解や他者理解、コミュニケーション・プロセス、グループ・プロセスの基本的な学習を目指している。受講者にとっては、利害関係にとらわれることなく、さまざまな人々と接触を持つことも魅力の一つであり、そこから新しい友人関係や仲間意識が生まれ、自主研修グループに育っていく場合も度々ある。

専門研修（継続研修）としては、“自己理解を深める”研修と“グループ・プロセスの理解を深める”研修とが基礎研修に続く研修として開講されている。中部地区では唯一の「Tグループ（人間関係トレーニング）」や、「TA（トランスアクションナル・アナリシス）」は回数を重ね、「ユング心理学」や「クリエイティブアート・セミナー」、「ボディーワーク・セミナー」も多くの受講者を迎えている。また、新しく「カウンセリングの対話」「ホリスティック生命論ワーク」「リーダーシップ・トレーニング」が開講されいずれも好評であった。

一方、コンサルテーション活動は地域社会の個人や組織体に対してセンターが提供できる専門機能であり、1984年度「名古屋いのちの電話準備委員会」約100名の電話相談員の「人間関係基礎訓練」以来、「名古屋いのちの電話」は、1985年7月から相談業務に入り、センターは毎年「人間関係基礎訓練」「継続研修」の訓練計画と実施の援助を続けている。また種々主地域団体の研修プログラムをはじめ、1990年度からは名古屋市内の生涯教育センターのプログラム開発に対して講師としてセンター研究員が派遣されている。

■ 社会人研修／人間関係基礎研修講座（一般研修）

第53回人間関係講座

開講期間：1999年5月1日～7月17日

土曜日 13：30～16：00

参加者：18名

担当者：星野 欣生

第54回人間関係講座

開講期間：1999年9月30日～12月9日

木曜日 18：30～21：00

参加者：14名

担当者：中村 和彦・佐竹 一予

ドストエフスキイを読もう

開講期間：1999年4月17～2000年1月22日

土曜日 16：00～18：00

参加者：18名

担当者：大森 正樹

聖書深読入門A・B

開講期間：1999年6月30日・7月1日（2日間集中）

参加者：14名

担当者：奥村 一郎

■ 社会人研修／人間関係専門研修講座（継続研修）

TA入門（トランザクショナル・アナリシス）B

開講期間：1999年10月9日・10日・11日（3日間集中）

参加者：16名

担当者：中堀 仁四郎

ノート法入門

開講期間：1999年10月30日～12月11日

土曜日 14：00～17：00

参加者：15名

担当者：楠本 和彦・澤田 孝子

アートセラピー・セミナー

開講期間：1999年7月30日・31日・8月1日（3日間集中）

参加者：22名

担当者：伊東 留美

カウンセリング的対話

開講期間：1999年5月6日～7月29日
木曜日 18：30～21：00
参加者：15名
担当者：楠本 和彦・中村 和彦

ホリスティック生命論ワーク

開講期間：1999年10月1日～12月3日
金曜日 18：30～21：00
参加者：20名
担当者：まどか 庸代・アルフォンス・デーケン

私の生き方を哲学する

開講期間：1999年5月1日～7月10日
土曜日 13：30～15：00
参加者：9名
担当者：中野 清

ボランティア・セミナー

開講期間：1999年5月15日・16日（2日間集中）
参加者：6名
担当者：平山 恵

エコサイコロジー

開講期間：1999年7月23日・24日・25日（3日間集中）
参加者：9名
担当者：川浦 佐知子

アドバンス体験学習

開講期間：1999年9月25日～2000年1月22日
土曜日 13：30～17：00
参加者：16名
担当者：星野 欣生

Tグループ（人間関係トレーニング）

開講期間：1999年8月14日～19日 5泊6日
場 所：（財）KEEP協会・清泉寮
参加者：18名
担当者：中堀 仁四郎・山口 真人・中野 清・佐竹 一予

トレーナー・トレーニング

開講期間：2000年2月23日～27日 4泊5日
場 所：（財）KEEP協会・清泉寮
参加者：7名
担当者：中堀 仁四郎・山口 真人

■社会人研修／参加者統計（1999年度）

講座名	場所	担当者	期間	時間	曜日	参加者数	性別		居住地		職業										年齢					
							男	女	市内	市外	公務員	団体職員	会社員	自営業	医療関係	教育関係	教会関係	主婦	学生	その他	無答	20～29才	30～39才	40～49才	50才以上	無答
人間関係基礎研修講座						1,628	315	1,313	953	675	87	73	394	60	163	216	45	331	105	120	34	685	425	356	139	23
前回まで																										
第53回 人間関係講座	南山短大	星野	H11.5/1～7/17	13:30～16:00	土	18	5	13	8	10	1	0	5	3	1	1	0	5	1	1	0	2	4	8	3	1
第54回 人間関係講座	〃	中村・佐竹	H11.9/30～12/9	18:30～21:00	木	14	4	10	9	5	0	2	3	0	1	2	0	0	2	1	3	6	2	3	0	3
計						1,660	324	1,336	970	690	88	75	402	63	165	219	45	336	108	122	37	693	431	367	142	27
人間関係専門研修講座						1,970	463	1,507	829	1,141	122	109	495	87	184	353	21	234	114	186	65	644	559	486	209	72
前回まで																										
私の生き方を哲学する	南山短大	中野	H11.5/1～7/10	13:30～15:00	土	9	3	6	1	8	1	0	3	0	0	0	0	3	1	1	0	2	1	3	2	1
カウンセリング的対話	〃	楠本・中村	H11.5/6～7/29	18:30～21:00	木	15	2	13	7	8	0	0	3	1	2	4	0	3	1	0	1	3	4	6	2	0
ボランティアセミナー	〃	平山	H11.5/15～5/16	2日間集中		6	1	5	3	3	1	0	0	0	1	3	0	1	0	0	0	1	2	1	2	0
教師のための体験学習講座	〃	津村・山口 楠本・グラバ	1日集中×3 2日集中×1	10:00～16:00		22	6	16	5	17	4	1	0	0	1	13	0	0	2	0	1	4	7	7	1	3
エコサイコロジ	〃	川浦	H11.7/23～7/25	3日間集中		9	2	7	3	6	0	0	4	0	0	2	0	1	0	2	0	2	2	3	1	1
アートセラピーセミナー	〃	伊東	H11.7/30～8/1	3日間集中		22	1	21	8	14	0	1	4	0	1	6	1	2	1	5	1	2	8	4	6	2
Tグループ	清里 清泉寮	山口・中野 中堀・佐竹	H11.8/14～8/19	5泊6日		18	3	15	4	14	0	1	6	0	0	5	1	1	2	2	0	7	7	1	2	1
アドバンス体験学習	南山短大	星野	H11.9/25～ H12.1/22	13:30～17:00	土	16	3	13	8	8	2	0	4	2	1	2	0	1	1	2	1	3	1	8	1	3
ホリスティック生命論ワーク	〃	まどか	H11.10/1～12/3	18:30～21:00	金	20	2	18	10	10	3	0	3	0	2	2	0	4	3	2	1	2	3	5	0	10
T A 入門 - B	〃	中堀	H11.10/9～10/11	3日間集中		16	3	13	6	10	2	1	4	0	1	1	1	1	2	0	3	5	6	0	3	2
ノート法入門	〃	楠本・澤田	H11.10/30～12/11	14:00～17:00	土	15	0	15	8	7	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0	5	1	6	3	0	5
トレーナー・トレーニング	清里 清泉寮	中堀・山口	H12.2/23～2/27	4泊5日		7	3	4	1	6	0	0	3	0	0	2	0	0	1	1	0	2	2	1	2	0
聖書深読入門	マリア館	奥村	H11.6/30～7/1	2日間集中		14	3	11	7	7	0	0	3	0	0	3	0	6	1	0	1	1	2	4	5	2
ドストエフスキを読もう	南山短大	大森	H11.4/17～ H12.1/22	16:00～18:00	土	18	5	13	12	6	1	0	1	3	0	1	0	7	0	3	2	1	1	4	11	1
計						2,177	500	1,677	912	1,265	136	113	533	93	193	397	24	273	130	204	81	680	611	536	247	103
総計						3,837	824	3,013	1,882	1,955	224	188	935	156	358	616	69	609	238	326	118	1,373	1,042	903	389	130

■ コンサルテーション

○ 「名古屋いのちの電話」電話相談員養成講座の計画と実施

「いのちの電話」は、訓練を受けたボランティアが電話を通して、さまざまな悩みや心の危機に直面しながら身近に相談できる相手がなく孤独の中にいる人たちの、良き相談相手になっていこうとする市民の奉仕活動である。1953年ロンドンで始められ、現在では世界40ヶ国、数百万都市に設立されている。日本では、1971年に「東京いのちの電話」が開設され、今日まで東京、横浜、京都、大阪など30余りの都市に設立され、「日本いのちの電話連盟」を組織して各地でそれぞれ独自の活動をしている。

「名古屋いのちの電話」は全国で23番目の「いのちの電話」として1985年7月に開局し、現在160名余りのボランティアが年中無休の電話による心理的危機に対する援助活動に参加している。人間関係研究センターは、名古屋いのちの電話訓練委員会からの要請で、相談員養成講座の第一課程である人間関係基礎訓練のプログラムの立案と実施のコンサルテーションを行っている。継続研修、スーパービジョン、訓練委員としても関わっている。1986年7月には「名古屋いのちの電話」より感謝状の贈呈を受けた。

基礎研修は「自己理解を深める」をねらいとして、一泊研修と、1回3時間のセッションを毎週1回、計8回の体験学習プログラムを立案、実施している。1985から1997年度には第2期生から第10期生の基礎研修を実施。また1998年度10月から1月には第11期生の基礎研修を行った。

ねらい：「自己理解を深める」

- 自分の価値観（考え方や行動の特徴）に気づく。
- 自分のありのままを表現する。
- 相手のありのままを聴く。
- 対人関係（自分との、他人との）の中にある自分のあり方に気づく。
- 今、ここでの関係の中におこっていることに気づく。

この研修は、電話相談員養成の目的で行われたものであるが、決して相談員となるための技能訓練ではない。社会の中で、人とのかかわりの中で、共に生きようとするときに、誰でも求められることからの訓練としてプログラムされたものである。生涯学習のための一つのプログラムでもある。

1989～1999年度 コンサルテーション及び依頼事業

(順不同)

講 座 名	主 催
電話相談コンサルテーション	名古屋いのちの電話
人間関係及びグループリーダー研修等	名古屋市各区生涯学習センター
ヘルスカウンセリング指導者養成講座	愛知県教育委員会
教師と生徒のコミュニケーションの中でどこまで訊けるか	愛知県私学協会研究部
人と人のコミュニケーションについて	東海市教育委員会
青少年担当者・指導者養成事業	愛知県総務部
教師と生徒の人間関係	中部地区カトリック中・高等学校教職員教育研修会
患者理解を深めるために	浜松市立看護専門学校
女性が学ぶこと、ライフサイエンス	名古屋市教育委員会
カウンセリング講座	愛知看護協会
学校栄養職員研修会「リーダーシップの機能」	名古屋市教育委員会
老人福祉関係職員等研修事業	名古屋市民生局
企業経営＝職場でのコミュニケーション	名古屋商工会議所
私学協会教育相談研究所	愛知県私学協会
サークル活動をデザイン	名古屋市瑞穂青年の家
研修・研究の調査	奈良県教育センター
女性講座	春日井市いぶき会
気づき重視トレーニングの科学的根拠をさぐる	名古屋市青年会議所
女性管理者養成講座	日本経営管理協会中部支部
生徒指導のあり方	平和町立平和小学校
なごやかスタッフ養成講座	社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会
カウンセリングセミナー	社会福祉法人あさみどりの会
グループワークトレーニングの基礎知識	東海市教育委員会
社内研修会「なぜ今“気づき”なのか」	マーケティング・マネジメント・センター
名古屋市市民大学「グループリーダーセミナー」	名古屋市生涯学習推進センター
自主グループの研修会	婦人学習相談員グループ
ライフサイエンスのめざすもの	名古屋青年税理士連盟
自分を知るプログラムの体験学習	国立婦人教育会館
ヒューマン・リレーション・ラブ	聖マーガレット生涯教育研究所
女性のための自己開発講座	滋賀県立婦人センター
青年リーダー養成講座	小牧市教育委員会
人間関係を豊かにするには	名古屋市母子施設連盟
人間関係トレーニング	厚生連中央看護専門学校
中堅看護婦研修会	藤枝市立志太総合病院
なごや女性カレッジ	名古屋市教育委員会
おとしより・同僚と人間関係・チームワーク	名古屋市民生局
両親のためのコミュニケーション講座	あらたまメンタルクリニック
ボランティア・リフレッシュ講座	岩倉市社会福祉協議会
ボランティアスクール	社会福祉法人あさみどりの会
自己知と自己表現トレーニング	名古屋市女性会館
価値観を問直すー人間観のビジョンー	名古屋青年会議所
21世紀のみちーヒューマンービジョンー	名古屋市土木局道づくり懇話会
私立学校初任者研修会京地区研修会	(財)日本私学教育研究所
看護実習指導者研修会	静岡県看護協会
電話相談員養成基礎研修	名古屋いのちの電話
教育カウンセリング研修会	刈谷市
手話通訳者研修	昭和生涯学習センター
児童福祉施設職員研修会	名古屋市民生局
サタデーカレッジ	岩倉市公民館
カウンセリング研修会	刈谷市立小垣江小学校
一日カウンセリングワークショップ	紀南カウンセリング研究会
コミュニケーションの大切さと難しさ	名古屋市衛生局
人間関係を学ぶ	なごやかヘルプ研修センター
バキスタンププロジェクト	国際協力事業団

人間関係研究センター紀要『人間関係』（創刊号～第17号）総目次および総索引

巻頭言

星野欣生	第5号	竹内敏晴	第12号
伊藤雅子	第6号	大森正樹	第13号
津村俊充	第7号	楠本和彦	第14号
星野欣生	第8号	グラバア 俊子	第15号
中堀仁四郎	第9号	まどか 庸代	第16号
木村晴子	第10号	山口真人	第17号
中野清	第11号		

特別研究会

河合隼雄		梶田 叡一	
人間関係の教育	第2.3号-p.2	内面世界と自己意識	第11号-p.39
竹内敏晴		土田友章	
人間関係と自己実現	第4号-p.2	大学教育のあり方	
河津雄介		—「何を」教えるのではなく「どのように」—	第12号-p.159
学習者を中心にすえた教育のあり方をめぐって	第5号-p.2	中川米造	
柳田聖山		医療と人間関係	第13号-p.95
自己との対話 十牛の図	第6号-p.1	上田閑照	
上原輝男		宗教と人間存在	第14号-p.151
水月の極意	第6号-p.36	平山 恵	
坂口順治		全ての命を育む地球社会を模索	第15号-p.119
体験学習とキリスト教教育	第7号-p.1	竹内敏晴・村山正治	
那須野隆		“対談”ひとが かわり始めるとき	第16号-p.143
日本に於ける生涯学習の動向	第8号-p.1	中野清	
佐伯 胖		出会い・かかわり・学び	
内側からみる	第9号-p.61	～もうひとつの人間関係原論	第16号-p.170
村上陽一郎		笠嶋 淑恵	
人間科学の方法論	第10号-p.103	大学に求められる空間の性格	第17号-p.53

追悼文

In memoriam 柳原光先生

R.A.メリット

第11号-p.x

特別講演

野中郁次郎 コンティンジェンシー理論について —現状と課題— 創刊号-p.2

特集

Tグループ

創刊号

JICEラボラトリー・トレーニングの変遷(その1)	中堀仁四郎	p.11
高等教育におけるTグループの実践	星野欣生・山口真人	p.36
人間関係科Tグループ実践をめぐって	座談会	p.77
Tグループによる学習過程理解のための方法論的研究(1) —学生の形容詞語表現による雰囲気理解への他次元的アプローチ—	津村俊充	p.90
Tグループに於ける女性 —規範と性役割に由来する問題点—	KANTER、會澤俊三	p.99

人間教育における体験学習

第2, 3号

高等教育における体験学習

南山短期大学人間関係科の教育の概観 —10年の歴史と展望—	星野欣生	p.39
人間関係科における教育の試み —見直された体験学習—	R.A.メリット	p.47
人間関係訓練による体験学習 —トレーニングから学習へ—	柳原 光	p.64

南山短期大学人間関係科の10年

キリスト教概論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ	宮本 桂	p.84
人間関係概論A,B	柳原 光	p.89
人間関係基礎論Ⅰ	會澤俊三	p.95
人間関係基礎論Ⅱ	グラバア俊子	p.100
人間関係基礎論Ⅲ	山口真人	p.106
人間関係研究法(その1)	星野欣生	p.114
人間関係研究法(その2)	星野欣生	p.117
人間関係各論Ⅰ(家族に関する領域)	伊藤雅子	p.124
人間関係各論Ⅱ(組織・集団に関する領域)	山口真人	p.132
人間関係各論Ⅲ(文化に関する領域)	森田茂彦	p.136
人間関係各論Ⅳ(教育に関する領域)	R.A.メリット、會澤俊三	p.141

人間関係各論ⅣⅤ（援助法に関する領域）	グラバア俊子	p.145
人間関係総合実習（合宿）	山口真人	p.150
人間関係実験演習Ⅲ（卒業研究）	星野欣生	p.156
在学2年間と卒業後5年間の個人の成長記録から	會澤俊三	p.162
卒業生の追跡調査から	津村俊充	p.179
教師と学生のかかわりをめぐって	木村晴子	p.205
—心理臨床分野の教員として—		
「体験学習」を哲学する	中野 清	p.208
—体験と知とコトバ、知の復権を求めて—		

自己表現

第4号

自己表現ワークショップからの報告

自己表現ワークショップの概要	山口真人	p.33
ワークショップ1 「私の仮面作り」	木村晴子	p.36
ワークショップ2 「自由に踊ろう、感ずるままに」	會澤俊三	p.46
ワークショップ3 「クリエイティブ・ペインティング」	山口真人	p.53
ワークショップ4 「オイリュトミー」	グラバア俊子	p.60
ワークショップ5 「情熱とスペイン舞踏-感情と表現-」	まどか庸代	p.71
ワークショップ6 「絵本づくり-誕生-」	文殊紀久野	p.86

自己表現をめぐっての考察

チームづくりと自己表現	星野欣生	p.93
神秘体験にみる自己表現	大森正樹	p.98
現代文化と自己表現	樋田大二郎	p.102

グループの中に生きる

第5号

個を生かす集団・集団を生かす個	星野欣生	p.45
キリスト教における個と集団	市瀬英昭	p.50
現代科学に於ける個と集団の問題をめぐって	まどか庸代	p.55
—原子論からバイオホロニックスの発想まで—		
人間関係科の教育における個と集団	山口真人	p.69
—関係に定位した教育の実現をめざして—		
「個」と「集団」	横山 彰	p.77
—合流教育実践からの考察—		
チームづくりのトレーニングと組織開発	星野欣生・山元由美子・猪熊京子	p.91
企業内研修におけるグループトレーニング	松本寛之・田辺昂	p.121
南山短大における集団不適応	木村晴子	p.130
—学生相談室開設に向けての報告—		

対話	第 6 号
対話的生	宮本 桂 p.49
からだの対話	竹内敏晴 p.57
Cross Cultural "Dialogue" in the Age of Commodity Culture	R.A.メリット p.72
典礼—神と人との対話	市瀬英昭 p.89
神との対話としての祈りとアイコン	大森正樹 p.93
聴くということ	木村晴子 p.97
専門化社会とおせっかい	樋田大二郎 p.103
—教師と生徒の対話についての—考察—	
科学人と宗教人との対話	まどか庸代 p.115
Tグループ再考	第 7 号
Tグループの倫理	中堀仁四郎 p.35
Tグループと霊性教育	まどか庸代 p.49
Tグループに関する 2 つの考察	木村晴子 p.60
ラボラトリー教育におけるプログラミングについての考察	津村俊充 p.67
—Tグループを中心にした教育実践に向けて—	
トレーナーになること	星野欣生 p.79
対話的教育—M.ブーバーの教育論をめぐって	宮本 桂 p.89
学生にとってのTグループの意味	文殊紀久野 p.99
Tグループに思う	
遅い気づき	R.A.メリット p.136
Tグループトレーニングの場に座するとき	會澤俊三 p.138
Tグループで思うこと	大森正樹 p.141
Tグループトレーニングの経験と家族	伊藤雅子 p.143
Tグループ実践への提案	津村俊充 p.146
Wendepunkt —私のTグループ	グラバア俊子 p.150
Tグループ随感	竹内敏晴 p.153
生涯学習の実践—学びってな—	第 8 号
生涯学習と体験学習	星野欣生 p.41
いま生涯学習に期待されるもの	伊藤雅子 p.55
第二の大航海時代の生涯学習	グラバア俊子 p.81
生涯の大事	竹内敏晴 p.94
生涯教育方向性	R.A.メリット p.100
「生涯学習」雑感	河津雄介 p.103
人間関係基礎研修の理論と実際	津村俊充 p.106
ボランティア活動と障害学習	青木明子・山口真人 p.119

—いのちの電話活動におけるボランティア相談員の成長—	
セルフ・サイエンス	津村俊充 p.130
ドストエフスキーを読む（大人の読書会）	大森正樹 p.139
想起—礼拝における学び	市瀬英昭 p.142
体操を通して「からだところ」の健康づくり	石田幸栄 p.146
「体験学習」と自己理解	寺西佐稚代 p.150
—学生から教師という立場になって思ったこと—	
私の教育メモ	吉川房枝 p.154
からだ	第9号
鼎談：祈るからだ	竹内敏晴・大森正樹・中野清 p.1
「奇跡物語」にみる「からだ」の変容	市瀬英昭 p.36
「表現するからだ」走り書き	竹内敏晴 p.46
自己理解の手がかりとしての「からだへの気づき」	寺西佐稚代 p.53
人間教育の核心—学ぶこと・変わること	第10号
林竹二先生について	竹内敏晴・星野欣生・米澤穂積 p.1
Tグループにおける集団と個の変化	津村俊充 p.39
—参加者の気づきと学びを中心に—	
性格は「変わる」？—ゆらぎ構造に目を向けて	大森正樹 p.89
傍観者から共感者へ	伊藤雅子 p.95
自己実現	第11号
「女性として生きる不安」を越えて	伊藤雅子 p.1
—女性の自己実現のための課題をめぐって—	
ひとり立つこと	竹内敏晴 p.15
—表現と自己実現—	
大学の自己点検・評価と組織の活性化	星野欣生 p.25
—組織の自己実現に向けて—	
自己実現の目指すもの	大森正樹 p.34
愛	第12号
家族と愛	伊藤雅子 p.1
—結婚の社会学的考察をめぐって—	
恋愛と人格	大森正樹 p.10
—その西欧的かたち—	
愛の侵略	竹内敏晴 p.16
—マザー・テレサとシスターたち—	

いのち	第13号
いのちにとどり着くまで	グラバア俊子 p.25
—からだの叡智が導いた所—	
生命(いのち)の実感と似而非ヒューマニズム	大森正樹 p.35
いのちのとき	伊藤雅子 p.41
生命力と創造力	伊東留美 p.50
—ミケランジェロの「アダム」の創造を通して—	
「セチュアンの善人について」語る	竹内敏晴 p.61
—95年度「表現による自己成長」の授業にて—	
父 素芳居士にみる和学	まどか庸代 p.69
—INTERVIEW 国際・社会・変革 親のいのちを与って—	

人間関係原論	第14号
はじめに	大森正樹 p.29
新しい学問形成過程への試論：「人間関係の原論」	まどか庸代 p.31
体験学習方式による人間関係原論の意義と今後の課題	中村和彦 p.36
「人間関係原論」のキリスト教的背景	市瀬英昭 p.42
繋がりというテーマを与えられて	中堀仁四郎 p.51
心理臨床の分野から人間関係原論に関わって	木村晴子 p.56
—つながりの心理学から—	
学ぶ、かかわる、成長する	星野欣生 p.60
授業記録 1990～1991年度	津村俊充 p.66
授業記録 1993～1994年度	伊藤雅子 p.85
授業記録 1991～1992年度	まどか庸代 p.110
授業記録 1994～1995年度	星野欣生 p.123
考察と今後の問題	大森正樹 p.148

大学における人間性教育の試み	第15号
人間性教育を支える学習共同体の育成	山口真人・伊藤雅子 p.1
—人間関係科の教育理念と共同体づくりの柱について—	
人間性教育と心理臨床的アプローチとの統合の一試み	楠本和彦 p.26
—イメージを中心とした「自己分析」の授業報告—	
非構成的なグループ・アプローチの歴史的・理論的背景に関する検討	中村和彦 p.72
人間関係科における授業『人間論』の可能性	大森正樹 p.99
自文化における生命論的パラダイムシフト(覚え書き)	まどか庸代 p.108
体験学習法による生命と倫理	
—「いのちとことば」というカリキュラムの実施—	

体験学習による人間関係トレーニングの理論と実際

Tグループトレーニングを基礎とした体験学習の歴史的・人間学的考察

津村俊充・中野清 p.1

大学教育における人間関係研究への学生の自主的アプローチ

人間関係科専門科目「研究プロジェクト」の1998年度授業報告から

中野清・津村俊充・中村和彦 p.23

人間関係の原理の探究と人間関係科での学びの統合をめざした教育実践

—人間関係原論（1996～1997年度）の授業記録—

伊藤雅子・大森正樹・中村和彦・楠本和彦 p.33

“ともに生きること”を教え学ぶ人間関係原論の教育的試行

—人間関係科25期生の「地図にない旅」—

星野欣生・津村俊充・中野清・グラバア俊子・川浦佐知子 p.73

人間関係科の教育理念に根ざす価値の哲学的考察

人間関係原論の講義より“To be free”の美学を考える

中野 清 p.89

南山短期大学の誕生と人間関係科の教育実践について

「人間の尊厳」の理念を具体化するための教育実践

中野 清 p.95

プロセスについて考える

伊東留美 p.106

ともにあることをめざす「対話」を基礎としたカウンセリング教育の試み

—社会人講座「カウンセリング的対話」の実践報告—

楠本和彦・中村和彦 p.114

共にある

第17号

人間関係における「ともにある」ことに関する一考察

中村和彦 p.1

「共にあること」を巡って

楠本和彦 p.8

「地球・自然・人とともに生きる」試論としてのエコサイコロジー

川浦佐知子 p.26

PARADIGM COMMUNICATION の提言

まどか庸代 p.41

投 稿

JICEラボラトリー・トレーニングの変遷（その2）

中堀仁四郎 第2,3号-p.217

〔翻訳〕人間学—O.マルカード

中野 清 第6号- p.127

翻 訳

学習と問題解決（コルブ、ルビン、マッキンタイヤー）

津村俊充訳 第15号- p.173

ミニレクチャー

体験学習	星野欣生	第4号-p.109
プロセスとは何	津村俊充	第4号-p.116
コミュニケーション・プロセス	山口真人	第4号-p.120
(翻訳) センシビティ・トレーニング (シーショア)	津村俊充訳	第4号-p.125
(翻訳) グループその誕生から死まで・・・ (ウエーバー)	津村俊充訳	第4号-p.130
援助するということ	竹内敏晴	第5号-p.139
態度価値と責任性存在	大森正樹	第5号-p.144
対人感受性の開発	山口真人	第5号-p.149
アサション・リサーチ	星野欣生	第6号-p.155
人間関係の変革	山口真人	第6号-p.160
Tグループ	山口真人	第7号-p.179
TグループQ&A	星野欣生	第7号-p.189
人間関係とフィードバック	津村俊充	第7号-p.199
効果的なコミュニケーションのための5つの要素	中堀仁四郎	第7号-p.203
体験学習と学習ジャーナル	津村俊充	第8号-p.159
介入ということー構造化された実習においてー	星野欣生	第8号-p.167
ふりかえりについてー体験学習においてー	星野欣生	第8号-p.173
成長するための「粹」	木村晴子	第9号-p.175
コミュニケーションのプロセスとその障害要因	津村俊充	第9号-p.181
非言語コミュニケーションーからだの語ることばー	グラバア俊子	第9号-p.188
人間関係トレーニングにおける人間成長への変容モデル	津村俊充	第10号-p.139
(翻訳) より効果的なミーティングに向けて (ミルシュタイン)	津村俊充訳	第10号-p.146
「百聞は一見に如かず」ってほんとう?	津村俊充	第11号-p.97
(翻訳) コントロールからファシリテートへ (F. リース)	星野欣生訳	第12号-p.191
(翻訳) 人間としてのんのトレーナー (Ch. フィリップス)	津村俊充訳	第12号-p.203
(翻訳) プロセッシングのための問いかけ		
ー体験学習の過程を完成させるための助けとしてー	津村俊充訳	第13号-p.207
スクールカウンセリングと人間関係トレーニング		
ーカウンセリングと人間性教育の観点を中心にー	楠本和彦	第15号-p.165

レポート

人間関係研究センター社会人研修	津村俊充	第4号-p.137
客員研究員からの報告	高平百合子	第4号-p.150
NTLにおける最近のラボラトリー・トレーニング	津村俊充	第5号-p.157
教師のためのセミナー	山口真人	第6号-p.147
Tグループの実際	浜本孝子・河原紀久子	第7号-p.155

南山短期大学人間関係科でのTグループ合宿の動向	星野欣生	第7号-p.173
神経科クリニックでの体験学習の試み	寺西佐稚代・中堀仁四郎	第11号- p.83
—両親のためのコミュニケーション講座—		
現代青年の老人理解への教育的冒険	河合優年・津村俊充	第13号- p.1
—平成7年度授業、人間関係各論「人間と発達」の自己点検と評価をかねて—		
Memory of Gravity	川浦佐知子	第13号- p.19
Memories in Vein	川浦佐知子	第15号-p.195
—A Reflection on a 10-day Residential Training in Applied Deep Ecology—		
The Challenge of the Deep Truth	川浦佐知子	第16号-p.199
A Book Review of the Hidden Heart of the Cosmos		
Stories and Places: Human Relationship with Land in the Storied Universe	川浦佐知子	第16号-p.204
小規模女子短大における兼任カウンセラーの学生相談の特徴と限界に関する一考察		
—本学における学生相談の自己点検を兼ねて—	楠本和彦	第16号-p.227
女子短期大学の学生相談における兼任カウンセラーの工夫と留意点に関する試論		
—「日常と非日常の重なり」と女性の「共に抱え、共に育む」関係を中心に—	楠本和彦	第16号-p.240
パキスタンにおける人間関係トレーニングの実施	中村和彦	第17号-p.

研究ノート

授業記録：人間関係原論（1989～90年度）

～学生とともに人間関係の原点をさぐる～

竹内敏晴・山口真人・グラバア俊子・中野清 第9号-p.107

教育に目的があって、情熱を抱いてはいけないのか

グランド・ストーリーなきあとの教育

樋田大二郎 第9号-p.147

ファジィとラボラトリー（体験学習）

星野欣生 第9号-p.166

体験学習を用いたグループと個人の成長のための教育実践

（『人間関係プロセス論』の授業報告）

伊藤雅子・津村俊充・大塚弥生・中村和彦 第12号- p.37

Tグループを用いた人間関係トレーニングの教育実践

山口真人・津村俊充・星野欣生・中野清・中村和・森崎康 第13号-p.127

体験学習を用いたコミュニケーション能力の開発と個人の成長のための

教育実践—『人間関係プロセス論B. D』の授業展開とその考察—

星野欣生・大塚弥生・寺西佐稚代・中村和彦 第14号-p.179

実習をつくる

伊藤雅子・山口真人・大森正樹・まどか庸代 第17号-p.105

大学における演劇を用いた授業の展開

山口真人・土谷薫・竹内敏晴 第17号-p.155

「いろはワーク」と和学「いのち」論形成

まどか庸代 第17号-p.193

研究会

コンティンジェンシー理論について	野中郁次郎	創刊号- p.108
大学教育におけるTグループ適用の試み	星野欣生・山口真人	創刊号- p.109
これからのカウンセリングのあり方	小林純一	創刊号- p.111
わたしの歩んできた道	霜山徳爾	創刊号- p.113
ヒューマニスティック・エデュケーションの動向と自己成長への身体的アプローチ	グラバア俊子	創刊号- p.116
ブーバーと教育	真行寺功	創刊号- p.118
With-nessということ	星野欣生	創刊号- p.120
関係の神学	奥村一郎	創刊号- p.122
教育を考えなおす	伊東 博	創刊号- p.126
からだ・ことば	竹内敏晴	創刊号- p.128
もう一つの主婦像—商店のおかみさんたち	天野正子	第2.3号-p.269
人間関係科における体験学習—教員の十二年間—	グラバア俊子	第2.3号-p.271
体験学習と理論学習をめぐって—背後を読む—	中野 清	第2.3号-p.273
今日からみた人間関係科創設の意義	澤田慶輔	第4号- p.153
スペインにおける生命倫理研究の現状	まどか庸代	第4号- p.155
??人間関係科における個と集団の問題をめぐって	山口真人・中野清・伊藤雅子	第5号- p.171

事業報告

1977～1983年	(創刊号)	1992年度	第10号
1984年	第2.3号	1993年度	第11号
1985,1986年度	第4号	1994年度	第12号
1987年度	第5号	1995年度	第13号
1988年度	第6号	1996年度	第14号
1989年度	第7号	1997年度	第15号
1990年度	第8号	1998年度	第16号
1991年度	第9号	1999年度	第17号

あとがき

生涯学習制度化の懸念	まどか庸代	第8号- p.194
------------	-------	------------

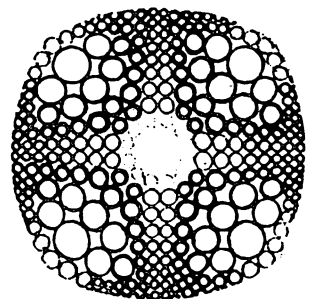
総目次および総索引

第17号- p.231

人名索引 (あいうえお順) (創刊号は1と記す。またxは巻頭言を表わす)

- 會澤俊三 1-p.99, 2.3-p.95, 2.3-p.141,
2.3-p.162, 4-p.46, 7-p.138
- 青木明子 8-p.119
- 赤堀八千代 14-p.1
- 天野正子 2.3-p.269
- 伊東留美 14-p.1
- 石田幸栄 8-p.146
- 市瀬英昭 5-p.50, 6-p.89, 8-p.142,
9-p.36, 14-p.42
- 伊東博 1-p.126
- 伊藤雅子 2.3-p.124, 5-p.171, 6-p.x,
7-p.143, 8-p.55, 10-p.95,
11-p.1, 12-p.1, 12-p.37,
13-p.41, 14-p.85, 15-p.1,
16-p.33
- 伊東留美 13-p.50, 14-p.1, 16-p.106
- 猪熊京子 5-p.91
- 上田閑照 14-p.151
- 上原輝男 6-p.36
- R.C.ウエーバー 4-p.130
- 大塚弥生 12-p.37, 14-p.179
- 大森正樹 4-p.98, 5-p.144, 6-p.93,
7-p.141, 8-p.139, 9-p.1,
10-p.89, 11-p.34, 12-p.10,
13-p.x, 13-p.35, 14-p.29,
14-p.148, 15-p.99, 16-p.33
- 奥村一郎 1-p.122
- 金森久代 14-p.1
- KANTER 1-p.99
- ガウ 13-p.207
- 梶田叡一 11-p.39
- 河合隼雄 2-p.2
- 河合優年 13-p.1
- 河原紀久子 7-p.155
- 川浦佐知子 13-p.19, 15-p.195, 16-p.73,
16-p.199, 16-p.204
- 河津雄介 5-p.2, 8-p.103
- 木村晴子 2.3-p.205, 4-p.36, 5-p.130,
6-p.97, 7-p.60, 9-p.175,
10-p.x, 14-p.56
- 木下幸恵 1-p.77
- 楠本和彦 14-p.x, 15-p.26, 15-p.165,
16-p.33, 16-p.114, 16-p.227,
16-p.240
- グラバア俊子 1-p.116, 2.3-p.100,
2.3-p.145, 2.3-p.271,
4-p.60, 7-p.150, 8-p.81,
9-p.107, 9-p.188, 13-p.25,
15-p.x, 16-p.73
- 小林純一 1-p.111
- コルブ 15-p.173
- 斉藤道雄 1-p.77
- 佐伯胖 9-p.61
- シーショアー 4-p.125
- 真行寺功 1-p.118
- 霜山徳爾 1-p.113
- 鈴木育三 1-p.77
- 高平百合子 4-p.150
- 竹内敏晴 1-p.128, 4-p.2, 5-p.139,
6-p.57, 7-p.153, 8-p.94,
9-p.1, 9-p.46, 9-p.107,
10-p.1, 11-p.15, 12-p.x,
12-p.16, 13-p.61, 16-p.143
- 田辺昂 5-p.121
- 土田友章 12-p.159
- 津村俊充 1-p.90, 2.3-p.179, 4-p.116,
4-p.125(翻訳),
4-p.130(翻訳),
4-p.137, 5-p.157, 7-p.x,
7-p.67, 7-p.146, 7-p.199,
8-p.106, 8-p.130, 8-p.159,
9-p.181, 10-p.39, 10-p.139,
10-p.146(翻訳), 11-p.97,
12-p.37, 12-p.203(翻訳),
13-p.1, 13-p.127,
13-p.207(翻訳), 14-p.66,
15-p.173(翻訳), 16-p.1,
16-p.23, 16-p.73
- 寺西佐稚代 8-p.150, 9-p.53, 11-p.83,
14-p.179
- 中川米造 13-p.95

- 中野 清 2.3-p.208, 2.3-p.273,
5-p.171, 6-p.127(翻訳),
9-p.1, 9-p.107, 11-p.x,
13-p.127, 16-p.1, 16-p.23,
16-p.73, 16-p.89, 16-p.95,
16-p.170
- 中堀仁四郎 1-p.11, 1-p.77, 2.3-p.217,
7-p.35, 7-p.203, 9-p.x,
11-p.83, 14-p.51
- 中村和彦 12-p.37, 13-p.127, 14-p.36,
14-p.179, 15-p.72, 16-p.23,
16-p.33, 16-p.114
- 那須野隆 8-p.1
- 野田勝子 14-p.1
- 野中郁次郎 1-p.2, 1-p.108
- 花房泉一 1-p.77
- 浜本孝子 7-p.155
- 樋田大二郎 4-p.102, 6-p.103, 9-p.147
- 平山 恵 15-p.119
- フィリップス 12-p.203
- 星野欣生 1-p.36, 1-p.77, 1-p.109,
1-p.120, 2.3-p.39,
2.3-p.114, 2.3-p.117,
2.3-p.156, 4-p.93, 4-p.109,
5-p.x, 5-p.45, 5-p.91,
6-p.155, 7-p.79, 7-p.173,
7-p.189, 8-p.x, 8-p.41,
8-p.167, 8-p.173, 9-p.188,
10-p.1, 13-p.127, 11-p.25,
12-p.191(翻訳), 14-p.60,
14-p.123, 14-p.179, 16-p.73
- 松本寛之 5-p.121、
- マッキンタイヤー 15-p.173
- まどか庸代 4-p.71, 5-p.55, 6-p.115,
7-p.49, 8-p.194, 13-p.69,
14-p.31, 14-p.110,
15-p.108, 16-p.x
- マルカード 6-p.127
- 宮本 桂 2.3-p.84, 6-p.49, 7-p.89
- ミルステイン 10-p.146
- 村上陽一郎 10-p.103
- 村山正治 16-p.143
- メリット 2.3-p.47, 2.3-p.141, 6-p.72,
7-p.136, 8-p.100, 11-p.xx
- 森崎康宣 13-p.127
- 森田茂彦 2.3-p.136
- 文殊紀久野 4-p.86, 7-p.99
- 柳原 光 1-p.77, 2.3-p.64, 2.3-p.89
- 山口真人 1-p.36, 1-p.77, 1-p.109,
2.3-p.106, 2.3-p.132,
2.3-p.150, 4-p.33, 4-p.53,
4-p.120, 5-p.69, 5-p.149,
5-p.171, 6-p.147, 6-p.160,
7-p.179, 8-p.119, 9-p.107,
13-p.127, 15-p.1, 17-p.x
- 山元由美子 5-p.91
- 横山 彰 5-p.77
- 吉川房枝 8-p.154
- 米沢穂積 10-p.1
- リース 12-p.191
- ルビン 15-p.173
- 柳田聖山 6-p.1



南山短期大学人間関係研究センター規程

第1条 本学に南山短期大学人間関係研究センター（The Center for the Study of Human Relations of Nanzan Junior College）（以下「センター」という。）をおく。

第2条 センターは、キリスト教的人間観に立って広く学際的・行動科学的に人間・人間関係の研究および研修を行うことを目的とする。

第3条 前条の目的を達成するために、次の各号の事を行う。

- 1 人間・人間関係に関する研究と教育の推進
- 2 センターと目的を共通にする学外研究機関との協力
- 3 地域社会における開かれた大学としての諸機能を果たすために研究会・研修会等の開催および個別的相談・指導・援助等
- 4 研究成果の刊行および文献・資料の収集と一般への公開
- 5 その他センターの目的達成のために必要と認める事業

第4条 センターに研究員を置き、そのうち1名をセンター長とする。

② 研究員およびセンター長は学長が委嘱する。

第5条 センター長は、センターの事業を掌理し、センターを代表する。

第6条 センターは、必要に応じて顧問、相談員および講師をおくことができる。

第7条 センターは、その目的にそって研修しようとするものを研修生として受け入れ指導・援助を行う。

② 研修生についての規程は、別に定める。

第8条 センターに事務職員をおく。

② 事務職員は、センター長の指示をうけてセンターの事務を担当する。

付 則

本規程は、昭和52年9月30日より実施する。

南山短期大学人間関係研究センター研究員

（1998年4月～1999年3月）

センター長 グラバア俊子

研究員	樋田大二郎	星野 欣生	市瀬 英昭	伊藤 雅子	伊東 留美
	木村 晴子	楠本 和彦	川浦佐知子	まどか庸代	文珠紀久野
	中堀仁四郎	中村 和彦	中野 清	大森 正樹	R.A.メリット
	佐竹 一予	鈴木 貞雄	竹内 敏晴	津村 俊充	山口 真人

事務局 小木曾洋子

（ABC順）

編集後記

南山短期大学人間関係研究センターにおける紀要発行（『人間関係』）の活動も本第17号をもって最終号となった。1984年に創刊号が出て以来、1999年まで16巻（途中第2巻と3巻が合併号）が発行されたことになる。学内外のいろいろな方に執筆をお願いしてきた。しかし、学内者にとっては、日頃の教育活動に忙殺される中からの執筆であったため、発行が遅れたことが度々あったが、年1回必ず発行するという鉄則を貫いたことは、大きな努力であったと自負してもいいだろう。

本紀要は、研究員の研究成果のみではなく、センターの活動を同時に記録するという役目をもっていたので、毎年の活動報告や研究会逐語録をも掲載してきた。ここで貴重な時間をさいてわれわれのために足を運び、得難い示唆を与えられたこれまでの幾多の講演者の皆様に厚く御礼を申し述べたいと思う。己が領分に閉塞してしまわないためには、常に外からの刺激を受け、他の分野・立場の見解を知る必要がある。この研究会はそのためのよい刺激剤であり、またセンター活動の栄養源でもあった。研究会を毎年開くという活動は、人選が大変であったが、センターにとってはなくてはならないものであった。

これまで本紀要で取り上げた「特集」はすべて、南山短期大学人間関係科での授業やセンター活動の中から重要なテーマを選び出している。その内容はほとんどが実践を通して考察されたものであって、単なる机上の空論ではない。教育活動の中から生まれた実践とその理論的考察から成るのが大半を占める。それは今後人間関係科の教育が飛躍していくための跳躍台となることだろう。

こうした一連のセンター活動を俯瞰的に見るため、最終号には「総目次と総索引」をもうけた。十分でないところもあるが、ご利用いただければ幸いである。

南山大学に「人間関係研究センター」が移管した後も、紀要は発行される。これまでの成果を踏まえて更に充実した内容をもった紀要が新しい装いのもとに世に送り出されることを望み、また期待しつつ筆を置くこととしたい。

これまでの御支援を感謝いたします。

（大森正樹記）

編集者 大森正樹
楠本和彦

人間関係 第17号
2000年3月20日 発行

編集発行者 〒466-0833 名古屋市昭和区単人町19番地
電話 (052) 832-6214・6211
FAX (052) 832-6210
南山短期大学人間関係研究センター
代表者 グラバア 俊子

印刷所 ㈱尾頭橋印刷所
名古屋市中川区南脇町3丁目20番地
電話 (052) 351-6231番(代表)